

「令和元年度ふくしま『学びのスタンダード』推進事業」推進地域の取組

パイロット校名	川俣町立川俣中学校、川俣小学校
推進協力校名	川俣町立福田小学校、富田小学校、川俣南小学校、飯坂小学校

川俣町「学びのスタンダード」推進地域の実践（3年次）

“川俣町の復興を担う子どもたちに確かな学力を身に付けさせたい！”

この思いを実現させるべく、「学びのスタンダード」を基盤とした、より質の高い授業や効果的な家庭学習の実践及び各学校の研修の充実を図ることなど、町内の先生方がアイデアを出し合いながら、児童生徒の学力向上に関する取組を推進してきた。

事業3年次に推進地域協議会が取り組んだこと

- ◇ 幼保小中の枠を越えた授業研究会の実施
 - ・ 町内小・中学校で50以上の授業研究会を実施し、可能な限り互いに参観し合った。
- ◇ 「見取りとコーディネート」をテーマにした「講演会」と「授業を見て学ぶ会」の実施



【講演会(8/21)】

新潟大学教職大学院
准教授一柳智紀先生
による講演会



【授業を見て 学ぶ会(8/28)】

福島大学准教授
小松信哉先生に
よる模範授業

- ・ 昨年度までの実践の課題から、「見取りとコーディネートについて実践的に学びたい」という思いがあった。そこで、今年度は「見取りとコーディネート」というテーマで、新潟大学教職大学院准教授一柳智紀先生のご講演、さらに福島大学准教授小松信哉先生の模範授業と授業解説を含めた講話を企画・実施した。この2回の研修を生かしてイメージした「見取りとコーディネート」を、自分たちの授業で具現化できるよう意識して実践してきた。

1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

(1) 研究授業だけでなく、日々の授業づくりに

研究授業の指導案作成はもちろん、日々の授業をつくる上でも活用している。単元における本時の位置づけを踏まえ、本時の指導のねらいや重点指導内容は何か、その実現のためにどのような働きかけが工夫できるかを考える際、「授業スタンダード」を活用してきた。

(2) 事後協議会や授業後に

事後協議会の中での話し合いや、日々の授業を終えて、授業を振り返る際にも、「授業スタンダード」を活用してきた。

(3) チェックシートは、授業者の意識付けや変容把握に

チェックシートは、定期的な授業者自身の振り返り、互見授業での参観シート、研究授業における教師の事前事後の変容把握に活用している。

2 パイロット校の取組内容

(1) 川俣中学校（パイロット校Ⅰ）の主な取組内容

① 国語科、数学科における「タテ持ち」の取組について

系統性を重視した指導の実現と、教員間の指導方法や教材解釈等の共有、協働して授業づくりを行うことを大切にして、数学科は3年間、国語科は2年間、以下のような「タテ持ち」指導体制をとってきた。

数学科	1組	2組	3組	4組
1学年	A	C	B	
2学年	B	A	C	D
3学年	C	B	A	

国語科	1組	2組	3組	4組
1学年	A	B	C	
2学年	A	A	B	C
3学年	A	B	C	



教科部会
数学科部会



国語科部会

② 「互見授業週間」の実施について

各学期に「互見授業強化週間」を設けて互いの授業改善につなげている。週時間割の参観可能な時間に○を付け、教科にこだわらずに、少なくとも一人一授業以上を参観することとした。

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
田												
田												
坂												

③ 家庭学習スタンダードの活用について

「家庭学習を充実させる取組」の一つである、「宿題の内容や量について調整していきます」を実現するために、「家庭学習予定表」を作成した。宿題内容を付箋に書いて表に貼り付け、提出期日などを書き込むことで、宿題が出ている教科数や宿題の提出期日等を、生徒も教師も容易に共有できるようにした。

日	曜日	行事等	国語	数学	英語	理科	社会	技術
12	金							
13	土							
14	日							
15	月							
16	火							
17	水							
18	木							
19	金							

(2) 川俣小学校(パイロット校Ⅱ)の主な取組内容

① 教師のコーディネートを高める工夫について

「授業スタンダード」の「共有させるための教師の働きかけ」や「考えを深めるための問い返し」などを集約した「教師のコーディネート言葉」や、授業で児童から「引き出したい言葉」をラミネートして教卓に置き、コーディネートすることを教師が「意識」するようにした。

コーディネート言葉
つなく(共有させる)ための教師の働きかけ言葉

【予題】「〇〇さんの式の意味を説明できますか」
「〇〇さんの考えの続きが言えますか」
【発表】「〇〇さんの説明をもう一度言えますか」
【発表】「〇〇さんの考えを別の言い方で言えますか」
【説明】「〇〇さんの考えを簡単に言えますか」
【共有】「〇〇さんの気持ちが分かりますか」
【発表】「〇〇さんの考えのよいところはどこですか」
【補助】「〇〇さんの考えのヒントが言えますか」

いかにするための教師のつなぎ言葉

- 「……をもとにすると……」
- 「……だとしたら……」
- 「たとえ……」
- 「つまり……」

考えを深めるための問い返しの言葉

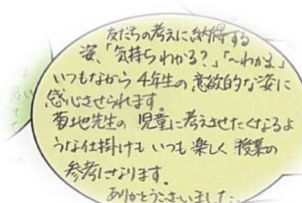
【事実】「どういうことですか」
【方法】「どのように考えたのですか」
【理由】「どうしてそうなるのですか」

引き出したい言葉

- 「どうして?」「なぜ?」「あれ?」
- 「もしも……だったら
(じゃなかったら)……」
- 「分かってきた!」「見えてきた!」
- 「例えば……」
- 「でも、……」
- 「絶対……と思う(になると思う)」
- 「もしかすると……」「たぶん……」
- 「だって、……」
- 「図(表、式など)を表すと……」
- 「つまり、……」
- 「〇〇さんと似ているんだけど……」
- 「〇〇さんに付足しなだけ……」
- 「……の場合はどうなるのかな?」

② 「互見授業月間」の実施について

今年度は10月に設定し、日頃の授業の考え方や工夫などについて、共有する場とした。授業者は「日時と教科」や授業の「見どころ」となる場面等を知らせて、互いに参観できるようにした。また、授業後は参観者の感想等を記入した「互見授業ありがとうメッセージ」を授業者へ渡した。



③ 保護者への啓発



「家庭学習に関するお話を聞きたい」という保護者の要望を受け、福島県教育庁義務教育課主幹の横山修先生を招聘し、ご講演いただいた。「やり抜く力」と自己マネジメント力とのつながりや、「勉強は大切なもの」と思わせる風土づくりなどについて、具体的にお話をいただいた。

④ 「自主学习ノート博覧会」の実施



家庭学習に対する保護者の関心を高めるため、授業参観期間に「自主学习ノート博覧会」を開催した。熱心に家庭学習に取り組む児童への称賛の場になったり、保護者が子どもの家庭学習への取組について、関心・意欲を高める場にもなったりした。

3 推進協力校の取組内容

今年度は、推進協力校である福田小、富田小、川俣南小、飯坂小の4校に、山木屋中学校も加えた町内の小・中学校全てにおいて、少なくとも1回は公開の授業研究会を実施した。日程等を連絡し合って互いに研究会に参加し合い、学校間で「互見授業」を実施してきた。

【川俣地区の授業研究会の実施回数】（パイロット校を除く）

福田小：2回 富田小：7回 川俣南小：7回 飯坂小：4回 山木屋中：4回

4 3年間の取組から見た成果と課題

(1) 成果

- 授業について指導助言をいただくことができる機会が多く、授業の質の向上及び授業改善につながることができた。特に、3年目の今年度は、町内小・中学校で50を越える授業研究会を実施し、そのほとんどが義務教育課や県北教育事務所、町指導主事の先生方から指導助言を得ることができた。また、幼稚園、保育園との一層の連携強化も実現できた。
- 風間寛司先生（福井大学）、一柳智紀先生（新潟大学）、小松信哉先生（福島大学）という3名の先生方を招聘して行った「講演会」及び「授業を見て学ぶ会」はたいへん好評であり、児童生徒の姿から、川俣町の先生方の日々の授業改善につながり、授業の質の向上が図られたことがうかがえる。
- 小学校での「教科担任制」や、中学校の国語科、数学科での「タテ持ち」は、これまでにない取組であったが、教員の得意分野や専門性を発揮したよい指導体制であると感じた。また、教師の専門性や教科の系統性を重視した指導の実現につながることも分かった。

(2) 課題

- 学校規模の違いから、小学校の「教科担任制」や中学校の「タテ持ち」について、そのよさや必要性を感じつつも、パイロット校だけの取組になってしまった。
- 指定3年目の成果を認識し、川俣町の小・中学校の教師一人一人が「こんなふうに私の授業が変わった」「児童生徒のこんな姿が見られるようになった」など、教師や児童生徒の具体的なよき変容を共有した。その取組の成果について、推進地域として認識を深めたことを、他地区の小・中学校に対してもより積極的に発信できればよかった。